

第52回歴史サークル行事開催報告(HP用)

当番世話人 川股賢三

ハイキングクラブと歴史サークルが合併することがサークル会員の同意で決定しており、13年間続いた歴史サークル最後の行事になりました。

東京の桜花見物をテーマに新宿御苑、千鳥が淵、靖国神社、上野恩賜公園、隅田川のサクラを見る欲張りな計画でした。

行事開催直前になって4月4日から8日の間、天皇陛下の傘寿を記念して坂下門から乾門の76本の桜の特別公開が決定したので、急遽、皇居のさくら見物を追加した計画を企画した。ところが初日の4日は5万人の見物人が二日目の5日には10万人弱と増加して坂下門の入場待ちが2時間半との情報があり、取りあえず二つのコースガイドと出欠者リストを参加者に配布することとした。

この行事には当初20名の参加申込があったが、直前なり3名から欠席届けがあつて17名での開催となった。4月6日(日)午前10時45分に晴れ空の中、JR千駄ヶ谷駅前に参加全員が集めたので、二つの案を提示して意見を求めたところ、長時間の待ち時間は大半の参加者が拒否したので、最初の計画に従い行事をスタートした。

最初に新宿御苑はアルコール禁止の公園で入り口でアルコール持ち込みチェックを受けて入場した。



新宿御苑の桜(新宿駅南口のビルも見えます)

国民公園協会 HP の説明では、新宿御苑の園内には約65種1300本の桜が植栽され、2月のカンザクラから、4月下旬のカスミザクラまで、長い期間にわたって特色あふれる花々を楽しめるのが魅力ですとあります。

ここはイギリス風景式庭園、フランス式整形庭園、そして日本庭園があります。桜は配布のパンフレットによるとオオカンザクラ、カンザン、コビガン、ヤマザクラ、ヤエベラシダレ、シダレザクラ、カンヒザクラ、シュゼンジザクラ、チュウシュウザクラ、ヒラヤマヒザクラ、ヨコハマヒザクラなどが点在している日本庭園の桜花を楽しんだ。イギリス風景式庭園にはプラタナス並木があります。まだ、新芽が出ていない為に枯木の並木道と勘違いした騒ぎもありました。

新宿御苑は新宿のホテルに近い為か欧米や東南アジアからの旅行者が多く見かけられて、英語・中国語・ハングルは聞き分けられますが、余り聞いたことのない言語が飛び交っていた。

新宿御苑から地下鉄を利用して北の丸公園へ移動。九段下駅は武道館で行われていた東洋大学の入学式（帰宅してニュースを見ると入学生が7500人とその父兄が同数として15000人が参加の式典）の関係者で超満員で駅から地上への階段が閉鎖されて清国通りを挟んで二つに分かれて地上に出たために合流に時間がかかり、また、北の丸公園の休憩所への道も武道館から退出した人々で溢れかえっていた。

北の丸公園で昼食休憩の予定が大幅にスケジュールより遅れる。この頃から小雨が降り始め、休憩所が満員の為に木陰での昼食になった。

天候が回復したので千鳥ヶ淵へ、ここの桜は堀の外側の遊歩道からのシーンがニュースなどで紹介されるが、今回は平木さんのガイドで堀の内側の散策道を使って上からの眺めで桜と堀でボート遊びを見ることができた。



北の丸公園から見た千鳥ヶ淵の桜

千代田区観光協会 HP の説明では、千鳥ヶ淵緑道のソメイヨシノやオオシマザクラなど約260本の桜は遊歩道を歩く人の頭上に咲き、まるで桜のトンネルの中を歩いているような体験ができる、全国的にも有名な桜の名所です。

4日の TBS ニュースによればこの桜は1964年の東京オリンピック開催を記念して植樹したものです。



千鳥ヶ淵の桜とボート(遠くに東京タワーが見えます)



靖国神社の境内 (この2枚は六角さん提供)

引き続き、靖国神社の桜を見物に移動。こちらは参道の片側に屋台が多数出店していてテントを張った会場で花とお酒の日本式の花見をしているグループがみられた。ここも国籍不明の旅行者があふれていた。

千代田区観光協会 HP の説明では、靖国神社境内には、ソメイヨシノやヤマザクラなど約400本の桜があります。また、靖国神社境内にあるソメイヨシノは、気象庁が東京の桜の開花宣言をする際の基準木となっていま

す。

九段駅に戻り、地下鉄湯島駅に移動。池の端から不忍池の財弁天へ向かう小道の桜並木(花のトンネル)を通り抜けて桜花を堪能して上野の山に登り、西郷さんの銅像前に集合した。江戸時代から「上野の山」といえば、当代きっての桜の名所。寛永寺が創建された後、桜が好きな天海僧正が吉野山から移植させたのが始まりと言われる。最初は寛永寺社殿と霊廟、東照宮、そして境内の桜を中心にした小さな公園だったが、現在では、その数およそ1,200本、文献によれば、樹種は60種類以上にのぼるという。なお、上野恩賜公園は木頃さんにガイドをお願いした。

予定では隅田川の桜見物が残っていたが、参加者からの提案で上野恩賜公園の午後3時過ぎに散会とした。この後、14名の人たちが集って今日の反省会を行い、本日の行事を全て完了した。

今年の染井吉野は3月25日に開花宣言があり、6日には葉桜かと思っていましたが、開花以降の気温が低いために長持ちし、多くの染井吉野は散り始め、山桜やシダレ桜は満開で十分に桜花が楽しめる一日でした。



不忍池のさくら並木(トンネル)

※染井吉野

明治初期に、染井村の植木職人によって造られたヤマザクラとエドヒカンサクラの交配種と云われ、染井村の造園師や植木職人達によって育成された。、他に伊豆半島で交配種を見つけたとの説もある。染井吉野は特別な交配種の為に接木か挿し木で増やされており、現在では日本の公園や街路樹の大半を占めている。木の寿命は60年前後と云われており、戦後、植樹された木々の多くが枯れ始めている言われている。

この染井吉野は、初めサクラの名所として大和の吉野(奈良県)にちなんで「吉野」「吉野桜」として売られ、広まったが、(この時代から偽ブランドが存在したのかと驚き！)

日本の博物学者の藤野寄命による上野公園のサクラの調査によってヤマザクラとは異なる種の桜であることが分かり、この名称では吉野山に多いヤマザクラと混同される恐れがあるため、「日本園芸雑誌」において染井村の名を取り「染井吉野」と命名したという。

参加者(敬称略アイウエオ順)

岩田芳秀、宇田川修侅、榎本哲夫、遠藤哲也、小澤敏宣、川上 昇、川股賢三、木頃勝紀、白岩仙一、住田勝治、中島公一、花岡秀男、平木行雄、平木七重、牧田賢二、湯浅尋夫、六角 学の17名

新宿御苑での集合写真



一列目左から住田勝治、平木七重、平木行雄、花岡秀男、岩田芳秀、遠藤哲也、白岩仙一、
二列目左から宇田川修笹、中島公一、湯浅尋夫、木頃勝紀、小澤敏宣、川股賢三、牧田賢二、榎本哲夫、
川上 昇、六角 学
参加者17名(敬称略)